



2021年10月20日

各位

東京都渋谷区渋谷二丁目15番1号
株式会社ソフトクリエイトホールディングス
代表取締役会長 林 勝
(コード番号：3371 東証第一部)
問合せ先：取締役常務執行役員 佐藤 淳
電話番号：03-3486-0606 (代表)
(URL <https://www.softcreate-holdings.co.jp/>)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向を踏まえ、2021年5月11日に公表いたしました2022年3月期第2四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年9月30日)の業績予想及び配当予想を修正いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

2022年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2021年4月1日～2021年9月30日)

(百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり四 半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,504	1,757	1,770	990	74.50
今回修正予想(B)	10,277	2,089	2,149	1,259	95.74
増減額(B-A)	773	332	379	269	
増減率(%)	8.1	18.9	21.4	27.2	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	11,534	1,621	1,694	978	75.72

(修正の理由)

当第2四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年9月30日)においては、新型コロナウイルス感染症の急拡大による外出自粛による経済活動の停滞による業績への影響が強く懸念されておりましたが、緊急事態宣言の延長に伴う外出自粛やテレワーク・在宅勤務の推進等を背景として、リアル店舗を展開している企業様のほか様々な企業様においてECサイト構築需要が拡大したことにより、ネット通販サイト構築パッケージ「e c b e i n g」やECクラウドサービス「メルカート」の売上が拡大したことや、売上拡大の施策となるビジュアルマーケティング「v i s u m o」、オムニチャネル分析ツール「S e c h s t a n t」、レビュー最適化ツール「R e v i c o」等のクラウドサービス(S a a s型)への投資需要が拡大したことにより、当社グループが注力するECソリューション事業が想定以上に拡大いたしました。

そのほか、テレワーク及び在宅勤務等への働き方の変化により、インターネット上で稟議書等を電子的

化するためのワークフローサービス「x-point クラウド」、「AgileWorks」の売上が拡大したことや、インフラおよびセキュリティへの投資需要が確定したことにより I T ソリューション事業が堅調に拡大いたしました。

以上の状況を踏まえ、当第 2 四半期連結累計期間につきまして、上記の通り修正することといたしました。

なお、第 3 四半期以降の下期連結業績においては、当初予想通り依然慎重な見通しを立てておりますが、現在、それらの影響を精査中でありますので、2022年 3 月期の通期連結業績予想の変更はしていません。お知らせすべき事項が判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
前回予想 (2021 年 5 月 11 日発表)	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 —	円 銭 15.00	円 銭 30.00
今回修正予想	—	20.00	—	20.00	40.00
当期実績	—	—	—		
前期実績 (2021 年 3 月期)	—	15.00	—	15.00	30.00

(修正の理由)

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題のひとつと位置付けております。剰余金の配当につきましては、経営体質の強化と将来のグループ全体としての事業展開を考慮しつつ、株主の皆様へ安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。

第 2 四半期末の中間配当予想につきましては、前回予想の 1 株当たり 15 円に対し 5 円増の 20 円とし、期末配当につきましては前回予想の 1 株当たり 15 円に対し 5 円増の 20 円とし、年間配当予想 1 株当たり 40 円に修正することといたしました。

なお、経済動向の先行きが極めて不透明な状況ではありますが、当社といたしましては、収益力の状況や財務健全性等も勘案しつつ、株主の皆様への利益還元についても十分な配慮を行う方針であります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上